

課題の内容

#	課題	想定機器	課題の内容（具体例）
①	夜勤職員の業務負荷軽減	見守り機器（ベッドセンサー等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時巡回/定期巡回に時間を要する。 例) 1フロアに1名の介護職員を配置し、30分～2時間毎に訪室を行う。要介護度が高い利用者に対しては10分毎に訪室することもある。 ・ 随時巡回/定期巡回により移動が生じ、身体的に負担である。 例) 随時巡回の際、職員待機所から居室への移動に最大80m程度歩く。 ・ ナースコール（マットセンサー等）が頻回であるため、精神的に負担である。 例) 緊急度や優先度がわからないため、検知音の度に、緊急度の高い想定で対応が求められる。 ・ ナースコールや利用者の出歩きに対応する必要があるため、まとまった作業時間がとれない。 等
②	利用者の転倒・転落防止	見守り機器（カメラセンサー等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の状態がわからないため、危険行動に対応できない。 ・ 転倒/転落時の状況がわからないため、発生要因の分析ができない。 等
③	記録業務等の効率化	介護業務システム等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の帳票に重複して記入している。 ・ 職員により記入内容にバラつきが生じている。 ・ 記録の内容が職員間で共有されていない。 ・ 既存の記録ソフトでは、施設特有のサービス体制や情報共有のあり方を反映するのが難しい。 等
④	被介護者と介護職員（及び	コミュニケーションロボット等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被介護者の発話が不足している。 ・ 被介護者と会話をする時間が十分にと

	家族)との意思疎通		れない。 ・大人数を好まない方や、身体を十分に動かせない人向けの個別レクリエーションが提供できず、見学の場合がある。 等
⑤	移乗支援時の職員の身体的負担の軽減	移乗支援機器 (非装着)	・トイレ等の狭い環境で利用者の体を支えながら介助する場合、介護者の姿勢は不良となり、腰痛の要因となる。 ・車イスへの移乗支援時等に回旋を伴う運動をするため、腰痛の要因となる。